

えれば、3～6頭/m<sup>2</sup>の放養量でむしろ成長が良くなることを示している。実際に高密度養殖をしている業者は主に雑魚を投餌している。

今後は餌料と底質を考慮に入れて、高密度養殖の可能性をさらに検討したい。

### 3. 冬期稚亀保温養成試験

11月以降の水温下降期にふ化した稚亀は、十分摂餌しないうちに冬眠期を迎えるので、歩どまりは非常に低い。当試験は、その対策として、当才稚亀を保温飼育することによって、摂餌及び成長を促進し、歩どまり向上と短期養成を図ることを目的とした予備試験である。

#### 1. 方法

1973年11月にふ化した平均重量4.8g、甲長3.1cmの稚亀を用いて、25℃保温区、自然条件区に分け、1月より3月まで養成を行なう予定である。池は80×120×50cm(高)のエスロン製で、底面に5cmの砂床を作り、スッポンが潜れるようにした。

#### ロ. 結果

表6 稚亀保温養成試験の中間結果

項目 試験区	平均 水温(°C)	放養(1月12日)			取り上げ(2月23日)			成 績	
		頭 数	平均 重量	平均 甲長 (cm)	頭数	平均 重量 (g)	平均 甲長 (cm)	歩どまり(%)	増重割合
保 温	25	100	4.8	3.1	86	8.9	3.7	86	1.85
自然条件	18.0	91	"	"	36	5.3	3.2	40	1.14